氏　　名：宮本　千恵美
学 位 の 種 類：博士（看護学）
学 位 記 番 号：甲第 190 号
学位授与年月日：2020 年 3 月 10 日
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当
論 文 審 査 委 員：主査　吉田　千文（聖路加国際大学教授）
副査　山田　雅子（聖路加国際大学教授）
副査　片岡　弥恵子（聖路加国際大学教授）
副査　幅下 貞美（順天堂大学医学部附属順天堂医院看護部長）

論　文　題　目：　都市部大学病院の急性期病棟における退院支援の質改善

博士論文審査結果

本研究は、都市部にある A 大学病院の皮膚・泌尿器科混合病棟の退院支援の質改善を目的とした、Implementation Research である。

組織的な退院支援が患者アウトカムを向上させるというエビデンスはあるが、臨床経験年数の少ない看護師が多数を占める都市部大学病院の急性期病棟での退院支援プロセス促進に効果的な具体的方法は明確になっていない。 研究者は、自身が退院調整看護師として所属する病院の 担当病棟 の 退院支援の課題を 多角的アセスメン トによって特定し、円滑な退院支援プロセスの実施、リーダー看護師の退院支援推進のための役割遂行能力向上、患者・家族の満足度向上を臨床アウトカムに設定し、退院支援推進プログラムを介入として計画した。退院支援推進プログラムは、先行研究でのエビデンスを基に退院支援学習会の開催、入院時カンファレンスとリーダー看護師を対象とした入院時カンファレンスのリフレクションなどから構成され た。そして、その実装方略を病棟状況に合わせて策定し、質改善アプローチを用いて実施し、実行可能性、適切性、受容性、浸透度を含む 5 つの実装アウトカ ムによって評価した。

2019 年 6 月 ~9 月までの約 4 か月間に全病棟看護師を対象とした退院支援学習会をのべ 12 回、入院時カンファレンス開催に向けたリーダー看護師への準備・運営支援とリフレクションをのべ 13 回行い、質改善サイクルを 3 回循環させた。その結果、退院支援のスクリーニング件数、再アセスメント数、退院支援計画書作成件数が増加し、リーダー看護師のカンファレンス準備・運営に関する役割遂行能力のポイント、および患者・家族の満足度が向上した。また、実行可能性、適切性、受容性、浸透度を含む実装アウトカムは概ね良好であり、本研究での実装方略の有効性が示された。

審査では、以下の点の指摘があった。

１．退院支援推進プログラムの各構成要素のエビデンスを明確に 示すこと。２．３つの臨床アウトカムの順序性とその理由について説明を加えること。また、研究者が行ったリーダーへの支援を実装方略に位置づけること。３．退院支援推進プログラムの各構成要素 の目的 を 方法論に 明記すること。また質的データの収集目的を明確にし、臨床アウトカム測定に記載すること。臨床アウトカムと実装アウトカムに関するデータ分析方法を記述すること。４．結果：退院支援推進プログラムと質改善サイクルのプロセスを時系列に沿って把握できる図表を示すこと。病棟の看護師構成、プログラムの各要素への参加人数、アウトカム評価表回収率、臨床アウトカムの数値など結果を具体的に記載すること。 5. 考察本研究の実装方略が看護師個人、チーム、病棟マネジメントなどに与えた影響、臨床アウトカムにつながった理由について、先行文献を用いて考察すること。 また、今回の退院支援推進プログラムの継続と普及のための方略を考察すること。6. 論旨を明確にするため、論文題目、研究目的、用語の定義、論文構成を修正すること。 7. 美しくわかりやすい論文となるよう全体を見直し洗練させること。

これらの点について修正されたことが確認された。

最終試験では、研究者が実践の場の問題に真摯に向き合い、退院支援の専門家としての優れた実践力を発揮し、丁寧に忍耐強く改善に取り組んだことが高く評価された。また、研究者が取り組んだ Implementation Research が、対象病棟の退院支援の質改善のみならず、看護管理者がマネジメントの方法を学び、看護の質改善に向けた希望を持つ効果をもたらしており、研究者が今後、組織変革のリーダーとしての役割を発揮できるものと評価された。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。